て全員出席した。

前回に続いて、議事に先

代理者も、沖縄教区を除い

価 1部140円(本体133円-共200円) 1年分 〒共 紙代のみ 本紙を購読ご希望の方は、前金を そえて、お近くのキリスト教書店 へお申し込み下さい。

教会の購読料は負担金に含みます

5,000円 3,500円 日本キリスト教会館内 振替 00140-9-145275

発行所 日本基督教団 169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18

> 電話 03(3202)0546 FAX03(3207)3918 発 行 人 内 藤 留 幸 編集主筆 竹 澤 知 代 志 印 刷 所 株式会社きかんし 留 幸 竹 澤 知代志

の援助について「募金を通 立ち開会礼拝が持たれ、 教団が一つとなって、 悲惨 **軸となった。3・11以来全** 戸宣教と募金運動が車の両 語教会の危機的な状況の中 して、神の大きな恵みが実 一般り組んでいる。一 している。マケドニアの エルサレム教会の信徒へ 信徒への手紙二8章9節 長 問や意見が強く述べられ、 み、対策委員会を設けて事 に当たるべきだ」という提

宮本義弘宣教研究所委員長、熱心に聞き入る常議員たち では、被災教区の負担金減 当幹事とする「会館問題小 を委員とし、内藤留幸総幹 と、また教区活動連帯金配 免について審議されたこ 委員会」設置が決議された。 事、藤盛勇紀総務幹事を担 員、藪田安晴年金局理事長 順一常議員、鈴木功男常議 れたことが報告され、別記 この件については、翌18 全国財務委員長会議報告 石橋秀雄議長と、藤掛 の作業中である。 目の決定を経て、

た。各教区議長またはその 名全員の出席で開催され 会が、10月17~18日、教団 第3総会期第4回常議員 びついていることを強調し 道と募金・援助が密接に結 いる」と語り、昔も今も伝

で踏み込み、時に白熱した れぞれの項目について、重 隣接のアバコの問題にも絡 た。その対応を巡って、危 事について、簡易診断を行 状態であることが報告され 必要性があること、深刻な った結果、精密診断をする 大事から細々したことにま 総幹事報告を巡って、そ キリスト教会館の耐震工

来的な展望を問いただす質 働きを覚えて、感謝と追悼 を歓迎する意見もあった。 宣教師の報告があり、その 例回のように、逝去教師・

み、建て替え、移転等の将 繋がると、NCCの改革案 特にNCCの姿勢に批判的 いてなど、根幹に関わる事 教団との関係、負担金につ た。NCCの活動の現況、 な意見が強く述べられた。 柄に及ぶ質疑がなされた。 方で、改革、関係改善に

東日本大震災救援募金、 8月9日に行われた第2 同

一その重大性緊急性に鑑

要素があることが報告され 会組織に変更する案が有力 であるが、流動的で不確定 (NCC) に関して、 理事 日本キリスト教協議会

味で伝道局設置の必要性を 計画を作成し実施できる、 責任と継続性を持つ部署が

が報告された。

のように提言がなされた。 報告に譲る。特筆すべき事 応え、伝道のための予算を ら、委員会報告の中で、次 項としては、伝道委員会か なされ、質疑があったが、 は、それぞれ詳細な報告が 随時掲載している各委員会 専門委員会報告について 教団には諸教会の要望に 常設委員会ならびに常設

ボランティア支援、キリス について協議対応したこと ト教会館耐震簡易診断など

国教区内で委員会を持ち、 を決定した」。 また、伝道委員会が東中

期教団に委員を送っていな す事柄であったと説明し 件について、事実関係と是 た教会が、教区の干渉(?) 議員より述べられ、宇野稔 たものの、一端は受け入れ 礼拝奉仕を行おうと計画し 非とを問う意見が北紀吉常 これに併せて近隣教会での によって、これを返上した 既に新報に掲載したことだ

て検討すること、伝道方策 設置可能性について継続し 確認した。今後は、伝道局 検討委員会へ伝道局設置も

会から要望することの2点 含める機構改正を伝道委員

信仰職制の答申そのもの

については、内藤総幹事は、

るのか」との主旨の質問が あるのか。合否に影響があ 歴を確認する」とは、「ど は経緯を説明した上で、「教 る」と述べた。 明記されていると受け取 て、教区との関係を構築す 団では、この答申に基づい と説明し、岡本知之副議長 の程度まで確認する必要が る。教区と教会との関係も 会報告の「受験志願者の履 教師検定について、委員

た。この件を巡り、干渉か 会との関係そのものを問う うな権限はあるのかとの激 指導か、そも教区にそのよ しい議論になり、教区と教

会館問題小委員会設置

と述べ、収拾を図ったが、 申に基づいて判断したい」 議論は続いた。 との関係は、信仰職制の答 石橋議長は、「教団と教区

た」と説明した。 るので赴任予定を確認し 教区での面接を整理する必

教会の実態に合わない総額 の人件費を押さえるべき、 算に関連して、「特に幹事等 その他、教団歳入歳出予

きない性質がある」と答え は削れない。柔軟に対応で 意見に、伊藤瑞男予算決算 の井上勇一京都教区議長の た。小出望東海教区議長は、 委員長は、「人件費は簡単に 算が足りない現状を訴え、 収入の減少により教区の予 委員会の姿勢を問うた。 教会の収入減少に伴う教区 (新報編集部報)







会館問題をはじめ、切迫した課題に立ち向かう

状で、「宣教とは何か」の

ての多義的な意見がある現

| えて、伝道の手段に取り入 れてほしい。より地域のこ

まとめは乱暴であるとの意

とを考えるものを盛り込ん

でほしい。組織を見直して

観点でなされたものであ

についての見直しは異なる

また、社会活動基本方針

教会を立てていく施策を

「宣教の方法」に入れてほ

沿って新たに見直してもら

今回のガイドラインに

宣教の方法に関連して、

いたいとの要望が出され

教団として進められていた 69年の機構改正のゆえに、

伝道が教区に丸投げされた

結果、その当時立てられた

案がなされた。

作業によって中断していた 基礎理論に盛り込む主要項 ガイドラインの作成、 の作業状況は、目次立て、 は、『信仰の手引き』発行 礎理論」改訂のためのガイ 作業を再開している。 「宣教基礎理論」の見直し その状況のもと《「宣教基 第3総会期の宣教研究所 原案作成 らう予定であるとの回答が 部の共通理解を示したもの のガイドラインはあくまで づいて完成したガイドライ であって、今後、これに基 も現段階における委員会内 について質問があり、今回 ンを常議員会で検討しても このガイドラインの性格 ガイドラインの内容につ

体的な適用の問題に議論が いては、宣教と伝道という

とたように、詳細にわたる

対しては、「伝道」という はどういう意味か。これに 「従来の云々」という文言

なった。主な議論は以下の 義を巡る議論がまず活発と と「伝道」という言葉の定 う「伝道」のことである》 的には、従来の言い方で言 項目、《「宣教」は、第一義 に対する質問から、「宣教」 とおりである。 「I宣教とは何か」の第2

十証しと捉えている、との くない、また、宣教=伝道 いう言葉に捕らわれて欲し り、また一義的・二義的と 背景を踏まえたものであ 狭い意味の伝道に特化して 回答があった。 道基礎理論」にしてほしい、 もよいのではないか、正面 との事柄に関しては、「伝

望も出された。

た。その他、次のような要

に信仰告白を据えてほし た。さらに、評価する意見 い、などの意見が寄せられ

方法で現してほしい。 若い

貢献をしてきたことを踏ま が女子教育や福祉に大きな 愛を伝えるために具体的な 入れてほしい。キリスト教 への伝道に役立つことを **差別されている人に神の** 教会を維持するために教区 が互助に苦慮することにな ったとの指摘がなされ、そ

要望もあった。 インを作成してほしいとの の反省も踏まえてガイドラ

(秋葉恭子報)

世界宣教委員会報告に当たる木下委員長(東京教区議長)

団新報等に掲載済であるこ

回答があった。

今回の報告は、すでに教

をしたいとの先方の申し出

に応じただけである、との

て、削除したほうがよいと という内容の記述につい

具体的な果実が得られない 伝道方策のレポートからは

との意見に対しては、それ まとめるべきではないかと

は当該委員会の課題ではな

たが、それには無理があっ

となることを目的としてい の開拓伝道は伝道所が教会

ることが指摘された。

いう意見と共に、レポート

麥員会目的そのもので議

述べられた。

他教団・他教派における

考え方を聞きたい、あるい

る、との認識が示された。

宣教研究所の課題であ

この件に関連して、従来

ありようについての省みと

は、教団がしてきた伝道を

にて補われることを見込ん

伝道方策検討委員会

うな幾つかの討議がなされ とが確認され、なお次のよ

O'UN INC

りかとの質問があり、

方策委員会に吸収するつも

道の幻をきちんと捉え、分

回答があった。

会との合同協議を予定して

教区活動連帯金検討委員

明確にされることが望まし

いと記されたことについ

委員会の設置目的が今一度

常議員会において、当該

を分析して検討すべきでは

た。これに対しては、教団

教

について報告された。

テムを作ってほしい。

团

ポジウムの

価

巡

n

論

第 37 総会期 第4回常議員会

質疑応答では、「東日本大

本部報告の件」と「震災対 日目の午後、「救援対策 援対策は募金、海外は献金。 震災救援募金」について「救

第一原子力発電所事故によ ること、また遠野・自殺防 計などの報告がなされた。 る放射能被害への対応など 者支援センター(エマオ) を有する、東京(木下宣世 報告があり、また被災地域 岡本知之副議長より「シン におけるボランティア活 誠幹事より、東北教区被災 の被害状況および対応、会 震災対応に関しては、加藤 議長) を含めた4教区から 「11246祈りの時」の 救援対策本部では、主に 石巻築山ワークのボラ ィア要請が増加してい シンポジウム」について「具 金としている。教会では献 部にアピールするために募 は「社会委員会も募金。外 意見があった。 記されるべき。教団を通す 金」などの意見があった。 付けたい」「募金は活動の行 ている」と説明し、その他、 がある。教団救援対策本部 為、ささげられた瞬間、献 ケースと教区を通すケース 「全教団的働きとして位置 また一東日本大震災緊急 これに対し雲然俊美書記 海外は教会に限定され

体的に教区につながるシス 手前右は上竹裕子磐城教会牧師(4面参照) で、 告については、本紙473 と。救援対策本部事務室報 下記は被災3教区の報告 特に強調されたこと、

常議員会ではシンポジウム されたが、被災地の出席は によって答えが出ると説明 状況」が配布された。初動 報告はこれで終了とのこ 奥羽教区(邑原宗男議長) 6号に特集の予定がある。

ポジウムはよかった」「救援 ほとんどなかった」と意見 て問われるときとしてシン があった。 これに対し、「福音によっ 被災教区

で御言葉を聞いて救援の力 の原点は礼拝である。そこ がある。献金という趣旨が

報告はいずれも承認され 質のものである」など活発 なことを受け止めてゆく性 ると思う。そのことを明確 ついて、震災の前も後も変 な意見が交わされた後、各 ウムはいろんな人がいろん 裏付けてくれた」「シンポジ を得ると聞いた。その点に にしてくれた。救援活動を わってはならない原点であ %減、2億6179万円。 案を次のように説明した。 金は11年度原予算に対し 10万円が予算決算委員会 伊藤瑞男予決委員長は原 経常会計収入では、負担

教区で分担する。 減額割合は11年度同等、各 の教団負担金部分の減免処 減額分を被災3教区以外の 教会の財務状況を勘案した これは、11年度末の繰越金 の赤字を計上する。ただし ることを含め、490万円 を生じ150万円減額とな 室料が貸室解約により空室

救援対策本部報告·震災対応 第22号となる「被災教会 東北教区(髙橋和人議長) いる様子が伝わってきた。 の教会への訪問者、ボラン 興(復交)が大事にされて れ、建物と共に人の心の復 会の近況が記され、これら ティアの写真が沢山盛ら 大船渡教会、

と。宮古教会、千厩教会、 各教会また関係施設の被 新生釜石教 された。教区として重点的 ボランティアの働きが報告 せて、教区被災者支援セン 更のように驚かされる。併 いこと、広範囲なことに今 害状況が一覧表により詳細 ターについても、各地での に報告された。被害の大き に対応すべき会堂・牧師館

となる。 として、各教会の状況が実 千万円、またアジア学院を 億円、幼稚園・保育所約8 関東教区(秋山徹議長) 額合計、教会・伝道所約3 入れると合計10億8千万円 に詳細に上げられた。被害 教区被災支援委員会報告

(松本のぞみ報)

状況は刻々動いているので 意見があった。 直して支出を抑制するよう

胆 な提案巡り議論 白 熱

り12年度は計上しない予定

は3カ年にわたる減額によ 円とする。沖縄宣教連帯金 550万円減額し350万 体負担金中NCC分担金を 額し2千万円とする。他団

だったが、執行部の意向で

40万円を残し計上した。

収益事業会計では、

た。また、今は東日本大震 が良いとの意見が出され 新たなものとして考えた方 いこと等から、一旦終了し、 案は枠を超えていること、 1パーセントの拠出が難し

説明を受け、被災教区議

0 减

免処置要望

蔵入歳出予算

を負担する教区からも厳し 実情に合った減免処置が強 い財務状況が訴えられた。 く要望された。また減免分 対しては予算案を堅持する よう意見があった。 が追加説明された。これに れておらず、増額の可能性 C分担金減額がまだ確定さ 内藤総幹事からは、NC

局繰出し金を250万円増

経常会計支出では、

年金

(渡邊義彦報)

支出項目をさらに精査、

教区活動連帯金検討委員会

の時間全てが費やされた。 照)、この件について活発な 告し(新報4734号参 回委員会での協議内容を報 提案の扱いについて、提 岡本知之委員長が、第4 災復興のために教団を挙げ

> る等の肯定的な意見が出さ れた。一方で、27総会での 勢の低下が止まらなかった 決議を受け継ぎ、教区間格 を図らないと、更に衰退す ことを振り返り、今、転換 だけで来たこの20年間、教 がなされた。 報告について、格差是正

事にも、 の名前を 知れない。しかし、何 の教会員が飼っていた 涜的だと思われるかも 犬の名前だ。犬に天使 エル。前任地 日く因縁とい 付けるとは冒

もたちには、噛む仕草さえ可愛い。間と噛むが、何しろ幼犬、この家の子ど い。▼不幸な幼犬期があったのか、彼 て、ガブリエルと呼んで もなくクリスマスになり、誰ともなく、 でもなく、ガブリとなった。▼ガブリ みつく。そこで、正式な命名を待つま ちょっと可愛げなエルを付け加わえ は家人だろうが誰だろうが見境なく噛 うことがある。 怒らずに聞いて貰いた

いた。 ▼こう 漢字で表記すると、吠える噛む(ホエ その後も、正式な名前は、ガブリ・エ 間違えている人は、決して少なくない。 エルカムです」と言っていれば、可愛 えるのは大歓迎の意味なんですよ。ホ と、商売向きではない。ウエルカム、 こで、ガブリは外されてエルとなった。 のは無理か。人間の中にも、その辺を 子なりの歓迎なのですよ」と説明する い。しかし、ガブリと噛むのを、「この 持ちだって和む。噛まなくなった。そ ルカム)。▼逆手に取って「この子が吠 ル。▼別な知人の飼い犬は、ウエルカ がって貰え、吠えなくなるかも知れな れ向きの名前だ。しかし、由来を聞く して可愛がって貰っていれば、犬の気 商売をしている人ではないが、そ

差を埋めていくという精神 員会に委ねるべきとの提案 て力をつくすべきであり、 この件は、伝道方策検討委 現状維持のための資金配分 ほしい、現状維持こそが何 を尊重する制度を検討して | ではなく、教区の自立性を 委員長は以下の点に触れ 等の意見が出された。 めて、事柄を中心に配分し されていることが問題。指 区、受け入れ教区が固定化 た。現在の制度は、拠出教 十年に渡る伝道の形である ていくための変更である。 標をもとに配分するのを止 意見、質疑を受け、岡本 | や戦略に基づいた各教区の 重んじつつ、何等かの方策 が重ねられることとなる。 容については、今後も検討 として承認された。提案内 動を支援していきたい。 いて一致し、そのための活 に支援する。一つの体を形 成している教団が伝道にお 伝道を推し進めて行くため 検討委員会報告は、報告 (嶋田恵悟報)

所であるものが多く存在す ながら、現在も実体は伝道 はなく、名称は教会であり た、体力に見合ったもので (秋葉恭子報) るケース、なお判断保留で ではない。各教区センター るか、判断の足並みは一様 社団法人等の設立を選択す | とした。各教区、センター 等の判断は、残留、または が確認された。 検討中のケースがあること 教区、教区の判断とセンタ 移行の判断を決定している -の意向にズレを生じてい 会計上の確認が可能となる ターの位置づけと主として らに明確にし、各種センタ の判断を促すため、教団に って教団事務局と各種セン 成して提示する。これによ 残るセンターのあり方をさ という判断である。 -規則案、会計基準案を作

のことを常議員会に提案す 基づき、小委員会として次 このような現状の確認に 準備中と報告された。 回常議員会に提出するよう 規則案、会計基準案は次

ることを今期の目標とする

現状把握進むも残る課題 センター明確化推進小委員会

員会報告では高橋潤委員長

内の諸活動について検討す これまでの教団の伝道の が現状の報告と今期委員会

の取組みの目標について報 3総会期にわたる小委員 行するか、または独立した お各センターが教団宗教法 の現状把握は進んだが、な 会の設置を経て、各教区に 置かれている各種センター 会宗教法人による運営に移

現場研修会が開催された。

4日は18時から、教区・部

県内で起きた差別事件、更

には、人権意識の啓発を旨

県人権·同和教育研究協議 厚南隣保館に移して、山口

会委員長である萩商工高校

り、この5・6年の間に山口 差別部落の実態から始ま

翌5日は、

会場を宇部市

た。参加者は講師・現地案内

一終えた。

る宇部緑橋教会を主会場に かけて、山口県宇部市にあ 気が残る9月4日~5日に

の方も多いと思う。

講演では、山口県内の被

けられる思いがした。 ろの荒廃*を眼前に突きつ けた。差別がもたらす。ここ

でいる現状を教えられたの

が今回の現場研修会であっ

が若者から高齢者まで蝕ん 今なお続いて存在し、それ

げられていたので、ご存知 ②」 (10年1月) でも取り上

実には、大きなショックを受 別発言を繰り返していた事

にも、根深い差別の実態が

あった。しかし、そうした中

ルドワークとは対照的で

意味で、昨年の呉でのフィ

を留める風景はない。その

同和地区であることの痕跡

者を含めて30名と少なかっ

たが、昨年の講師の嶌本敏

雄さんも近江八幡から参

員会後に東日本大震災が起

神学大学の教師としての就

教委員会が9月16日、教団

派遣宣教師となる洛雲海

(ナグネ) 宣教師が長老会

第3総会期第2回世界宣

誠幹事、高田輝樹職員が教

こり、世界宣教担当の加藤

団の救援対策を兼任するこ

印式を行い、教団としての と石橋秀雄議長との間で調 教会総会議長、神学校総長 職が決定、PCK総会で同

派遣式を10月に行うことと

なったこと、また、今年7

台風12号のもたらした湿

して、西中国教区・部落解放

長である東岡山治牧師(上 落差別問題特別委員会委員

が犯す差別事件について、 とすべき市町村の公的機関

教諭・高林公男さんによる、

具体的な事例に則して、詳

県連合会書記次長・川口泰 続いて、部落解放同盟山口 下教会)による開会礼拝に

しく解説された。

と題する講演を聞いた後、 「山口部落解放史を学んで」

その中でも特に、中学生

司さんによる、「山口県の部

洛問題の現状について」の

『朝日新聞』夕刊の連載コラ

に運ぶために、自らも、そし

主で、集合住宅などが無く、

道幅拡充などの区画整理が

に対して、入試競争を有利 が同じ高校を目指す同級生

同地区の同和対策事業は、

フィールドワークを行った。 隣保館がある上中野地区の

「人脈記・差別を越えて

講演を聞いた。川口さんは、

被災地の子どもたちに祈りをもつて仕える 担当者会」および「宣教師 ため、懇談会の方は延期せ ざるを得なくなった。教区 第4回教育委員会

うちの中一日は「教区青年 で、第3総会期第4回教育 委員会が開催された。その 9月20日から22日の日程

一台風15号が東京を直撃した あったが、本州に上陸した との懇談会」とする予定で

別に報告をしている通りで 青年担当者会については、

台風が直撃する中、教団会議室で 送られるので関心をもって 委員会より各教会に要項が けをすることとした。教育 覚えて、被災地域の子ども えて献金計画をたててき ているキリスト教施設を覚 や子どもたちのために仕え スマスを覚えて、教会教育 たちを覚えて献金の呼びか た。今回は東日本大震災を この時期の委員会はクリ

に予定されている教区教育 2012年2月7~8日

教

2011年度

西中国教区

部

落解放現場研

寸

新

報

で地域の教会教育に仕える 担当者会、教会教育セミナ 教会教育セミナーはこれま ーについての詳細を検討。 ことを目的とし、教会教育

に関する講演会を催してき

ることとした。 て実際に清教学園を訪問す い、午後には現地研修とし 伝道の取り組みについて伺 場に担当者会議1日目およ を移し、清教学園のチャプ び教育セミナーを実施。2 レンより学校現場における は河内長野教会に会場

組みとしてキリスト教教育 教育委員会の現在の取り

との必要も考えられた。 めて広く教会に知らせると 実施される。これを機に新 る課題がある。2013年 ず、主事の働きについて改 より認定試験規定の変更が しい規定の周知のみなら また「教団新報」472

8号に掲載された「東日本

た。今回は、大阪教会を会一主事養成および認定をめぐ一をした。宣教委員会のもと 声明」をめぐって話し合い 大震災に関する宣教委員長

ついての発題

と題して発題を受ける。老

~青年伝道のビジョン~」

語られる現代、青年一人一 人に向かい合い寄り添いつ

へ伝道青年牧会の必要性が

書記より「若者は幻を見る

高砂民宣教師による青年伝道に

ランティア活動に触れなが ることが語られた。またボ つ、共に神のみ前に進み出

姿にも触れられた。 ろを求めている青年たちの ら、自分の用いられるとこ

きであった。 祈りをもって仕えていく教 子どもたち及びその地域に らされている現状を見過ご う深刻な放射能の脅威にさ にある教育委員会として、 育委員会の働きを考えると て神の憐れみを求めつつ、 慮を覚えるこの事態に対し すことはできない。深い憂 子どもたちが原発事故に伴 岸憲秀教育委員長により (清藤淳報)

会活動の現状を報告 第2回青年担当者会

された。青年担当者会は、 教会教育の現場において特 当者会が教団会議室で開催 に「青年」に対象を絞った 9月21日、第2回青年担

活動が各教区でどの様に展

一今回はその2回目になる。 きることを願って、前総会 年活動にネットワークがで 期に第1回目が開かれた。 することと、また全国の青 開されているか情報交換を

| 台風が迫り来る天候下であ 担当者もあったが、全国16 ら11名の参加者があった。 情で集まることのできない り、また葬儀など教会の事 教区と東京教区の5支区か

開会礼拝、担当者会の趣旨 の連なる各教区での青年会 説明がなされた後、参加者

いるところなど活動の形態 ろ、自主団体に委ねられて 地区で行われているとこ すと、青年会活動が教区や 以下、幾つかの報告を記

活動の現状報告がなされ

| 異なる。 そもそも 「青年」 域までの距離や修養会の主 る。地区の持ち回りで修養 題などによって集まり方が 会を開催する場合、開催地 ところもあれば、かつては ンプや修養会を続けている 行われていたところもあ は様々である。ワークキャ 課題もあれば、共通した問 常に幅広い。また青年会活 の年齢層が10代~40代と非 題としてうなづき合う場面 かないかで活動の内容の違 動の中心となる人物がある も多々あった。 いがあることなど、固有の

> 世に仕える人材の育成につ のみならず、社会人として

学の取組は、目の前の青年

いた青年伝道に力を注ぐ大 おきキリスト教信仰に基づ 聞く。各学部に宗教主任を の青年伝道について発題を

大学宗教主任より、学校で

次に、高砂民宣青山学院

現在同日本人教会のパート (清藤淳報)

めた。(2)カナダのバンクー 面接をしたうえで推薦を決 る宣教師の派遣依頼があ 世界の教会との絆によって その他ドイツや世界の教会 教協約を結んでいる教会、 韓国、台湾、スイスなど宣 また、この間にアメリカ、 動機や志を確認したうえ 師予定者を面接し、応募の り、公募への応募者があり、 教団が支えられている事実 の献金、祈りが寄せられ、 からの使節団の来訪や多額 出来事の報告を承認した。 大熊豊子宣教師の後任とな を聞き、感謝を共にした。 ヒアのラ・クロス教会から ー日本語教会の次期宣教 協議事項として、⑴ボリ 派遣する配慮が必要である 神学校卒業者を宣教師とし ことを承認した。そのほか、 こととした。4ベルリンの で兼任となっているので注 おり、教団の承認を経ない 師はフレーザーバレー日系 タイム牧師の木原葉子宣教 秋葉睦子宣教師の任期を2 討し、更に状況を調査する キリスト者集会(JCF) た、クアラルンプル日本人 経た上で教団の教師として て派遣するに際し、准允を 頼があり、これについて検 への新たな宣教師派遣の依 014年まで3年延長する 意を促すことにした。 (3ま 人教会牧師として派遣して

ことを確認した。 (秋山徹報)

で、正式の書類が整い次第



回世界宣教委員会 とになった。このために、 者への付き添いなどが相次 金の受領、現状視察の来訪 立ち上げなど多忙を極め ぎ、ほとんどパニック状態 らの問い合わせと救援や献 被災現地に赴き救援活動の **に。その上、海外の教会か** に陥るなかで働きが続けら

日にドイツのホーフガイス

することになったこと、E

MS宣教会議が6月23~28

が地震のため2年間延期と

韓国、教団の三国間協議会 月に予定していたスイス、

間の来訪者や派遣宣教師の 消息、傘下の各委員会の活 れてきた。委員会ではこの 変更、ドイツだけでなく加 教活動の全面見直し、規則 が参加し、EMSの世界宣 盟教会も負担金を担うこと マルで行われ、秋山徹書記 になったことなど、重要な

て大韓イエス教長老会への 午後には、雲然俊美教団 ながっている現状と望みを うかがった。

第 4735 号

のは震災から半年が経とうと

は確かに残されている。

方、特別伝道礼拝のテー

4

の歩みは痛みの中にあった。

4月、着任したばかりの礼拝

聖壇から見る幾人かのお

顔には涙が流れていた。 何と

の半年間の変化や兆しを問わ

こていた時であり、改めてこ

れる機会も少なくなかった。

大震災以来、私たちの礼拝

磐城教会 特別伝道礼拝

あっかり、再創造の

ない。具体的な計画を始めた を踏まえずには何も考えられ を始めた。特別伝道礼拝は、 当教会の恒例行事であった いう期待を持って祈り、計画 ら新しく創造してくださると 造)、神が私たちをこの礼拝か 過ごした私たちは、特別伝道 礼拝を迎えた。特別伝道礼拝 東日本大震災から7か月を 今年度は、やはり大震災 レクリエーション(再創 された。復興の中にも、 特別伝道礼拝の2週間前に召 看取りが始まった。兄弟は、 教会と学校との懇談会で講演 いと躍起になった。しかし、 治療室での闘病と共に家族の 姿勢を根本的に問い直され 6月に参加した聖学院主催の 詩編を祈り続けた。この月、 J報告を伺い、 礼拝に向かう 人の兄弟が病に倒れ、集中 7月から、礼拝で嘆きの 嘆き

をしていく中で、違う意見も は明るいイメージが必要では ないか? 役員会で意見交換 くないように思えた。教会に ガティブなテーマはふさわし を教会にお招きする場に、ネ 段あまり礼拝に来られない方 すことには抵抗を覚えた。普 マとして 「嘆き」 を前面に出 出た。震災によ -ズを作った。

慰めの言葉を語らねばならな かしてこの痛みを取り去り、

迎えした。藤沢教会は、 会聖歌隊有志の諸兄姉方をお 特別伝道礼拝には、藤沢教 私が

らない人々との

出会いが与えら

さった。一方で、教会生活を れられない。たくさんの方々 れたことへの感謝である。最 会を明るく見せようとか、元 ろに抱えており「嘆き」の通 共にしてきた兄弟姉妹との別 も困窮していた時に、日本ホ 歩みへの招き「嘆きと感謝の すべて神への献げものとする なものもポジティブなものも れるよう願った。ネガティブ 素直な場所として教会が開か 当の自分を置くことのできる 奏低音は響き続けている。教 さまざま思いを心の深いとこ れも経験した。それぞれが、 さり、実際に足を運んでくだ が私たちの教会を憶えてくだ の支援をいただいたことは忘 歌を!」というキャッチフレ いうのではなく、神の前に本 気な言葉を捻出しようとかと ーリネス教団諸教会から物資 る。

私は、藤沢教会の礼拝がど

申し出てくださったのであ 生教会員で東京在住の姉妹に り、この関係の中で大阪・蒲 来たような安心を与えるもの 増して、新しい奏楽者が与え さを課題の一つとして憶えて 楽者不在となり、ヒムプレイ も月一度のご奉仕をいただい 度も奏楽者をお送りくださ 会の兄弟姉妹は心を砕いて祈 かれる礼拝は、故郷に帰って られることを切望している。 3月まで伝道師としてお仕え た。さらに、聖歌隊の奉仕を いただいた。私たちは、ヒム ってくださった。そして、幾 である。故郷である私たちの 礼拝堂のオルガンの奏楽に導 小さな礼拝のために、藤沢教 ノレイヤーに慣れることにも した教会である。当教会が奏 ーで礼拝を導くことの難し

知っており、一度に30名近い のように計画されているかも 聖歌隊のメンバーが抜けてい

ことであった。その時はまだ、 教会員の半数以上が避難して 月31日午後、ちょうど私がに 会島田進牧師と共に、震災以 牧師(聖学院大学)は、土浦 教者としてお招きした松本周 わきに入って2時間ほど後の た。松本師は、度々福島 との度の特別伝道礼拝に説

ードにより一同で讃美する

出席者全員が握手し、平和の挨拶 手前中央は説教者の松本周牧師 ださった。松本師と藤沢教会 災からの歩みを憶えていてく いわきを尋ねてくださり、震 7か月の歩みを顧みながら 的な計画を進めた。当教会の 聖歌隊指揮者の木村牧子姉、 **そして当教会の三者間で具体**

をする中で、福島、埼玉、 奈川にある私たちの計画は、 い巡らし、メールでやり取り 嘆きと感謝」のテーマを思 礼拝は、聖歌隊による招き

震災から7ヶ月、待望の伝道礼拝。 藤沢教会聖歌隊の奉唱。

を交わした。

(アイオナ共同体) から始ま

さな群れである。完全なもの 思えた。しかし、主任の村上 の礼拝は、20名に満たない小 ない。大いに励まされた。 の讃美も加わっているに違い るところで讃美の声が上げら きで、藤沢で、全国各地の至 っている。主の日には、い 諸教会とつなげられ、補い合 かに、主のからだの肢である には遠いかもしれないが、確 の礼拝の助けになればそれで ないわけではない、磐城教会 実基牧師は、藤沢教会が毎週 れ、そしてそこには天の軍勢 完璧な礼拝をささげねばなら まうことは申し訳ないように よいとおっしゃった。私たち ぜ」、「主よ、御言葉をくださ る水野源三氏の歌「主よ、な 第1部は、聖歌隊による讃美 き市内にある常磐教会、勿来 深い慰めのみ言葉をいただい として、瞬きの詩人と呼ばれ 教会の皆さんをお招きした。 幼稚園の保護者など8名の新 読の後、松本周師を通して、 節が朗読された。ヨハネ福音 けた。第3部では、木村姉の い」などを聴いた。第2部で 来者を迎えた。 た。教会員の家族や友人方、 書2章の〈カナの婚礼〉の記 は、立証と木村牧子姉の独唱 「一羽のすずめに」に耳を傾 午後の讚美集会には、

くださったお一人である。3 降初めて当教会に駆けつけて 教会の嶋田恵悟牧師と日立教 うな痛みの中でも私たちは、 された松本師が、震災で会堂 の冬、取り壊される。そのよ また、半壊の判定を受け、こ たさった。常磐教会の会堂も が頭に巡ったことをお話しく 架はかがやけり」のフレーズ と、「とおきくにや」の「十字 問され、更地に取り外された 十字架が横たわっていたと が取り壊された福島教会を訪 くにや」(聖歌)をリクエスト へ

震災から生まれた

「とおき 時間を過ごした。 -字架の光を見つめて歩みた その中の一曲として、関東

を交わした。常磐教会の武公 の歌の間、参加者すべての人 たちが握手し平和のあいさつ しる祈りが導かれた。 子牧師の祈りにより、 最後に、「キリストの平和_ (上竹裕子報)

段目、

「再受験」2箇所を 秋季検定試験報告1

<u>1</u>面

磐城教会牧師

師検定委員会)

教区活動連帯金検討

ます。(部落解放センター運

いたします。(年金局) す。」に、お詫びして訂正 賀慶治、岡崎晃 五名で

に、お詫びして訂正いたし

Bコース3名、』に、お詫 削除して『Aコース4名、

びして訂正いたします。(教

解放センター運営委員会』

第二コリント1章3~11

小説 『夢の中の狂宴』 (『たね』 39号

の受賞は、その目標達成に関わる出来 スト者の文学」を目指してきた。今回 つ「キリスト者以外に認められるキリ 伝えたい」という課題を自らに課しつ 所収)で、2010年度全作家文芸時 評賞を受賞した。「物語」 によって真理を

活動は続けてきた。 の後は、外資系の物流会社に移り、海 勢を知り、小説『透明な霧』を発表。 裁判で争われたが、その過程で、被害 社した。三重県四日市で勤務していた 外出張で多忙の傍ら、 結果、信仰的な決断をもって退職。そ 者の苦悩や利潤のみを追求する企業姿 し、大気汚染とぜんそくの因果関係が 青山学院大学卒業後、石油会社に入 公害問題が起きた。8百人が死亡 それでも、創作

福音の力を信じて。



椎名麟三を中心とし

たねの会」と出会う。

た、数少ない、日本に

純一郎の講演を通して

四日市時代に、佐古

成井 透さん

真理を伝える課題 と向き合う

ハが少ない。やってみろ」と促

リーがある」というのは、「た もある。「父なる神」のイデー ねの会」のもっている方向性で 比して「イデーがあってストー る」とあった。リアリズムに対 「イデーにおいて傑出してい 全作家協会における選評に

師を務めたが、今でも、椎名の継承は 校で「日本人とキリスト教文学」の講 ある。退職後、15年間、日本聖書神学 ント文学の確立につながらない要素で し、これが、日本におけるプロテスタ トリック作家とは一線を画する。しか を失わない点で、遠藤周作ら日本のカ 課題としてある。

なった。 するも、 彦牧師より受洗。胃がんを患い、回復 1957年、三崎町教会で山北多喜 残された時を意識するように

リックであった安重根を取り上げた小 椎名生誕100年。韓国のプロテスタ 説に取り組む。歴史認識を乗り越える ト作家たちとの関わりの中で、カト 昨年「たねの会」は50周年、今年、

1932年生まれ。79歳。

委員会記事2段目『地域の

【教団新報4734号

お詫び・訂正)

椎名から「文学をやる 作家たちの集まりだ。 おけるプロテスタント

民度』を『民力』に、お詫 営委員会記事『第3回部落 びして訂正いたします。(教 **3面** 部落解放センター運 区活動連帯金検討委員会) 近況記事中、教会名を『西 営委員会) 雄、福本光子、土橋修、芳 隠退された教師は、林比佐 東京・更生』に、6面『再 **5**面 年金特集・隠退教師

玉川教会員。